プリンセス
小公女セーラ

第36話

『魔法のごちそう』
（仮）

AR台本

企画
制作
日本アニメーション株式会社

プリンセス
小公女セーラ

第三十六話　『魔法のごちそう』（仮題）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊
登　場　人　物
＊＊＊＊＊＊＊＊＊

セーラ…………島本須美

ミンチン…………中西妙子

アメリア…………梨羽由記子

ベッキー…………鈴木みえ

ロッティ…………渡辺菜生子

アーメンガード……八百板万紀
モーリー……向殿あさみ
ジェームス……郷里大輔
クリスフォード……仲村秀生
ラムダス……田中秀幸

カメラ	画面	音声
1	大木の梢がゆれている　その先に散らずのこった木の葉、風にひらめく　奥の煙突、風になびく　手前の木の葉が風に散って舞い散る	
2A	ボリスの背中で遊ぶ猿　耳をもち上げる　ボリス、顔を左右に振る　遊んでいた猿、重心を失なっておちそうになる　ボリス猿の尻尾を口にくわえ	
2B	飛んで行きストンとラムダスの前に着地するスーリャ　手前を向き足踏み鳴らす　ラムダスの手がスーリャを抱き上げていく	スーリャ「キキキ、キッキッ!」
3	猿を自らの肩に乗せるラムダス　猿を軽く手でたたき微笑する	
4	ボリスの頭をなでながら力なく	クリスフォード「……ハハ……ハハハ……ボリ

	笑うクリスフォード 尻尾を振りクリスフォードを見 つめるボリス		ス、もう少し猿のスーリャの対手をし てやりなさい……いないときには淋し いくせに……」
5	C＃3兼用書き足し 肩の上で 神妙にしている猿を見つめて笑 うラムダス		
6	ラムダス、猿からクリスフォー ドに目線を移す		クリスフォード「……ラムダス、お前も大分気 にしていた隣りの屋根裏の少女、未だ 姿を見かけないのか……」 ラムダス「ハイ……御主人様……」 クリスフォード「なにかよくない事でも起こっ ていたら可愛そうだな」
7	うなづくラムダス		ラムダス「どこのメイドも同じだと思いますが、 ……あれだけ働けば体をこわさないの が不思議な位いです」 クリスフォード「……病気かな……？」 ラムダス「……ハイ……そういうことも……」
8	身をのりだすように……		クリスフォード「ひどい扱いを受けているメイ ドじゃ……ろくな手当も受けられんだ

			ろう……」
9	大きくうなづき		ラムダス「はい……私もそうだと思います……」
10	C＃6兼用書き足し　にっこりとうなづき呼ぶ　軽く会釈して近づくラムダス　身をいく分かがめるように立つ　いたづらっぽく笑うクリスフォード		クリスフォード「うん……ラムダス……！」
11			クリスフォード「……私に代わって、その少女の様子を見て来ることは出来ないだろうか……」
12	一瞬おどろくが―意味を理解して微笑するラムダス、うなづいて……		ラムダス「は……?!……（微笑）私もそのことを考えておりました」
13	身をのりだしいたずらっぽく言うクリスフォード ラムダス微笑しうなづき 二人、顔を見合わせて笑い合う		クリスフォード「……無論、誰れにも気づかれんようにだ……」 ラムダス「十分、に心得ております」

14	裏庭の木も赤い葉がゆれている クリスフォード家のベランダの扉が開きラムダスが姿を現わす
15	下の庭を見下ろし—目線をセーラの部屋の方へ移すラムダス （あたりをうかがう演技）
16	学院の屋根に遊ぶ雀がいる
17	一人、納得したようにうなづくと振り返り扉しめる　ベランダの端へ歩くラムダス
18	ベランダの端に来て、もう一度あたりをうかがうように見下ろすラムダス　身をのり出しさくに足をかける—ひょいと飛び出す
19	屋根にのる足
20	屋根に降り立つラムダス　身を

	かがめて下の方、特に後の方を見るー		S・E （汽笛）～～～
21	家の間を行く列車を見ていたラムダス、顔を戻して前方を見る		
22	セーラの部屋の窓が見える		
23	忍んでいくように屋根の上を歩き始めるラムダス（スタスタと早い）		
24	這うようにして窓へ近づいていく　蔭に身をひそめる　うかがうように耳をそばだてていたが内部をのぞき見るラムダス		
25	内をうかがい見るラムダス		
26	枕元にエミリーを置いたセーラが昏々と寝ている　傍にベッキーが見守っている		

27	はっとなり、心配げに身をのり出してのぞき見るラムダス		
28	濡れたタオルをひたいにのせ薄口をあけて眠っているセーラ		
29	心配げに見守るベッキー　手をのばしてひたいの上のタオルをとるベッキー　立ち上がる		
30	木の箱の上の洗面器にタオルとベッキーの手が入り、しぼり戻っていく		
31	じっと見つめているラムダス見回す		
32	床が石灰で白くなっている		
33	T・U　肩をひそめるラムダス		
34	毛布をそっとかけ直すベッキー		

35	直し上がり起き上がり見つめるベッキー　C＃29兼用		ベッキー「では、お嬢様、また様子を見に参りますから……」
36	C＃28兼用　眠っているセーラ		
37	眠っているセーラを見つめ、枕元の洗面器を取り上げるベッキー		
	A・C		
38	ベッキー、セーラの方を向く 窓外のラムダス、はっとなり引っこむ　一礼して扉の方へ去るベッキー		
39	身をひそめ内部の音に耳をすます　窓に寄り内部をのぞくラムダス		S・E　（扉の開閉する音）
40	眠っているセーラ		
41	内を心配げにのぞくラムダス ゆっくりと窓から身を引き屋根の上部を見て一寸考える　上部		

	の方へ昇る—out		
42	上部に向かっていくラムダス 足音をしのばせ身を低くして…		
43	天窓に近づき身をひそめる　間 あって首をのばして窓から下を 窺きこむ		
44	廊下でいらいらとして待ってい るミンチン、アメリアの姉妹 扉が開く　二人、扉の方を見る		
45	ミンチン、手にもったハンカチ を口に当てて後ずさりする はっとなって見るアメリア、あ わてて口をハンカチで塞ぐ		
46	扉から振り返るベッキー、　?!と なった顔で前に出る		
47	後ずさりしながらベッキーに止 まるよう手で合図するミンチン		ミンチン「……ベッキー近寄ってはいけません!」

48	ポカンとして目をパチクリする ベッキー	
49	ミンチン 姉妹、口をハンカチで塞いだま ま顔を見合わせ愕然とした表情	ミンチン「それで……どうなんです……！　容 態は」 ベッキー「はーい……それが眠り病みたいに… ずっと眠ったままで……」
50	ポカンとしているベッキー	
51	心細げにミンチンを見上げるア メリア　こみ上げてくるイカリ に手のハンカチを握りしめ	ミンチン「な……なんて事です……！　こんな いまわしい病気になるなんて……」
52	悲しそうにうなだれるベッキー	
53	二階から三階への踊り場で、三 階の方を見上げている子供たち	
54	心配げに見上げていたロッティ アーメンガードを見上げて アーメンガード、ロッティを見 て　心配げにうなだれるアーメ	ロッティ「ね……アーメンガード……セーラマ マもう治らないの……?!」 アーメンガード「……そ……そんな事はないと 思うわ……、だけど……だけど……」

	ンガード	
55	アーメンガードをじっと見つめる目に泪が浮んでくるロッティ やにわにロッティ、拳を振ってアーメンガードをたたく　後退するアーメンガードを追いながらたたく	ロッティ「……嫌よ……嫌よ……」
56	アーメンガードを泣きながら壁に追いやりたたくロッティ 壁によりかかりロッティにたたかれるまま―そのうちロッティたたくのをやめアーメンガードにしがみつき泣く　アーメンガード、ロッティを抱きしめ自分自身なすすべを知らず宙を仰いで泪を流し	ロッティ「……セーラママ……が可愛いそう… ワーンワーン……ワーン！　ワーン！」 アーメンガード「……泣かないで……ロッティ ……私だって……私だってどうしたら いいか判らないのよ……」
57	アーメンガードとロッティを見つめる生徒たち	
58	ラビニアたちも唖然とした表情	

	で見つめる はっとなって直立する三人	ミンチン(off)「なにをしているんです！ 〜……早く教室へお戻りなさい！」
59	手摺りよりおこるミンチン、ハンカチを強くにぎりしめる	
60	緊張し見上げるアーメンガードたちとうつむきしゃくり上げているロッティ 階段をそそくさと降りていく一同	一　同「ハ……ハイ……！」
61	C＃59兼用書き足し　じっと下を見つめているミンチン　落付をもとめて大きく深呼吸をする くるりと振り返り 緊張するアメリア　つかつかと寄ってくるアメリア	S・E　（生徒の足音　消えていく） ミンチン「アメリア……！」 アメリア「……はい！　お姉様！」
62	止るアメリアをじっと見つめ	ミンチン「……このままあの娘の病気が長びき生徒の親ごさんにでも知れてしまったらどうなると思います」

63	ミンチンを見つめるが困惑の態でうつむいてしまう		アメリア「そ、そんな……私には……」
64	うつむいているアメリアをじっとにらむミンチン　くるりと背を向けるミンチン		ミンチン「う……う……恐ろしい病人を出した学校……！ そんな評判が拡がるのは、火を見るより明らかです……」
	A・C		
65	どんと手摺りをたたくミンチン うつむいたままのアメリア キリキリとつり上がる眉、ハンカチを胸前で一層強くにぎりしめる		アメリア「……はい…」
66	キッとなってミンチン		ミンチン「断じて、表沙汰にしてはなりません！」
67	ミンチン		アメリア「は……い……！」 ミンチン「……或いはいまわしい病気が生徒にうつりでもしたら大変です……どこかの慈善病院へ移してしまう事も考えておくべきです……」
68	はっとなって顔を上げるベッキー		～
69	アメリアを振り返りにらむミンチン　顔を上げてミンチンを見		……判りましたね」 アメリア「はい……！　お姉様……！」

	るアメリア　判ったのかしらと いったように口唇をゆがめいや らしい目付でにらみつけて階段 を下りていくミンチン	
70	ミンチンを見送っていたがうつ むいていくアメリア	
71	怒った表情で階段を下りていく ミンチン　FOLLOW	
72	じっと考えこみ、手のハンカチ をにぎりしめて立つアメリア ーを後で見つめるベッキー	
73	手にした洗面器かすかにゆれ、 中の水もゆれる　悲しげにうつ むいてゆくベッキー	ベッキー「……お嬢様……」
74	天窓から下を見おろしているラ ムダス　そうっと顔を引く	
	ーA・Cー	
75	起き上がり宙を仰いで溜息をつ	

	き、目をつむり悲しい表情で首を左右に振るラムダス（ああ何て可愛想な娘なんだろう）
76	後を振り返り見るラムダス 半身になって屋根を下りる
77	姿を窓のところに現わして内部を窺うラムダス
	A・C
78	内を窺い見るラムダス
79	ベッドで寝ているセーラ
80	壁の穴から次々に顔を出すメル一家　床にメル一家の足跡 チビ一匹前へチョロチョロと出て来て立ち止る
81	悲しそうに見上げているチビ 一家出て来て見上げる（チビも一緒に前に出てくる）

82	セーラを見つめメル一家、手をこすったりして顔を見合わせている		ネズミ　「チ、チ、チッ、チ……」
83	顔を見合わせたりして声を出す一家　メル一家天窓を見上げる		S・E　（かすかにギーと音がする）
84	ギーと静かに窓を開けるラムダス		
85	あわてて穴に逃げこむメル一家		
86	三十一話C＃219兼用　窓から飛び下りるラムダス		
87	白い床に音もなく着くラムダスの足		
88	すくっと立ち上がりベットの方へ歩く（そーっと）　セーラをのぞきこむラムダス		
89	薄く口を開けて昏々と眠ってい		

	るセーラ		
90	じっとみつめていたがしゃがむ ラムダス		
91	しゃがむラムダス　てっと手を 伸ばし、セーラの額の上に掌を かざし熱を確める　目をつむる		
92	壁穴からのぞき見ているメルた ち		
93	膝を折って右手をかざしている ラムダス　右手、左右に動いて いる　止る		
94	確めるラムダス　目をあける いくらか起き上がる顔　手を引 く		
95	C＃93兼用書き足し　マットの 堅さをしらべているラムダス セーラが無意識に寝返る		セーラ　「ウ〜〜ン……ウ〜〜ン」

96	はっとなって手を引き起き上がるラムダス		
97	動くセーラ　写真がゆっくりと倒れていく		
98	ベットの柵の間から落ちようとする写真　ラムダスの手が入って写真をつかむ		
99	取り上げる写真　開いてみようとする　一瞬ためらう―手をかける　寝返りをうつセーラ、はっとなりセーラを見るラムダス		セーラ　「う〜〜〜ん」
100	セーラの額から落ちるタオル		
101	C#99書き足し　はっとなったまま止まっているラムダス　セーラを見つめていて（息をころして）フーッと息をはき　手をのばして写真を置く		

102	手を引き落ちたタオルを取り立ち上がるラムダス		
103	息をひそめて見つめているメル一家		
104	静かに洗面器の方へ歩む　ゆっくり音を立てないようにタオルをしぼる		
105	静かにセーラをちらりちらりと見ながらタオルをしぼるラムダス　手前に来てセーラの額にゆっくり丁寧にタオルをおく		
106	起き上がり大きく溜息をはく		
107	セーラを見つめていたが、振り返り部屋を見回すラムダス		
108	白い床、火のないダンロ		
109	ネズミたち、もう見えない　ッ		

	ヅラ		
110	見回しながらテーブルの方へ テーブルに手をつき上のもの （本一冊、オカリナ、馬等）見 ていたが、ベットにかけられた 服を見て―手前に来て服をとり 上げ見る―ためつすがめつ見つ める―悲しそうな顔をして元に もどす		
111	かけられたボロの服　PAN UP 撫然とした表情で見つめている ラムダス　セーラの方を見る		
112	セーラの頭先の箱の上に白布に 覆われた薬ビン 手が入って白布をとり上げる ビンをとり上げる		S・E　（ラムダス足音）
113	ビンを眺め栓をとりにおいをか ぐラムダス　一度はなしてすか すように眺めて、にっこりとし		

	て栓をしめる		
114	ビンを置き白布をかける セーラの方を見つめるラムダス		
115	C＃103兼用書き足し 見つめている一家 一、二匹（子供）割りこむようにのぞき見る		
116	セーラを見つめるラムダス T・U 薄口をあけて眠り続けるセーラ		
117	ずんどう鍋をかき回すジェームスの手		ジェームス(off)～(on)「やれやれーええ事ったぜ～ どこか慈善病院に抛りこめって云われたって、そう簡単に引き受けてくれる所なん、なかろうによ……」
118	かき回しながら うなづくモーリー		モーリー「う～～ん！ 全く厄介な話だけど……何とかしないと大変なことになるよ……」
119	玉葱をむきながら悲しい顔をしているベッキー、泪をためている		ジェームス「そりゃそうだー！」

	う?!となって振り返るジェームス 顔をそらすベッキー、　ほろり涙を落として 顔を見合わせてケゲンな表情のモーリーとジェームス		ジェームス「なんでえ！　まだそんなことノロノロやってやがったのか……！」 モーリー「セーラがあの通りなんだ、　お前が買い出しに行ってくるんだよ！」 ベッキー「は……はい……ただいま……」
120	風に舞う落葉　路上に出て来たベッキーの足に落葉がからみつき舞い上がる		
121	見上げるベッキー　梢の残り葉が風にゆれている　振り返り見上げる		
122	学校の煙突から出るケムリ		
123	見上げているベッキー、悲しげに呟く　力なくあるきFr・out 風が落葉を舞い上げていく		ベッキー「……お嬢様……」

124	眠っているセーラ		
125	部屋を見廻して指呼点検のように指すラムダス 一つ一つうなづきながら		
126	眠りつづけるセーラ		
127	じっとセーラを見つめていたラムダス 丁寧に一礼する		
128	メル一家見つめている		
129	一礼したラムダス 天窓を見上げて鮮やかなジャンプをする		
130	窓にとりつき下を見て深く一礼し外に出て窓をしめる（一連の		

	動作スマートに）		
131	唖然と見上げるメル一家 チビ、手前に出て来て口をあんぐり、セーラの方を見る		
132	眠るセーラとエミリー		
133	カーデン市場 人々の雑踏、荷車が通った向こうにピーターとベッキーの姿が見える		
134	沈痛に腕を組むピーターとベッキー ベッキー泣き顔		ピーター「畜生……こんな時に俺がお嬢様の傍にいてあげられないなんて……」 ベッキー（泣き声）「ピーター……もしよ……もしお嬢様に万一の事があったら、私いったいどうしたらよいか」
135	気強く		ピーター「ベッキー……そんな事云うのはまだ

No.	画面	音
		早いぜ。さ、お嬢さんの為に二人でお祈りして行くんだ」
136	ベッキー、キョトン	ベッキー「えッー」
137	セントポール寺院全景	S・E　（鳴り響く鐘の音）
138	同、礼拝堂の中 ろうそくがゆらめく　奥の片すみにピーターとベッキーが祈るのが見える	〜〜〜〜〜〜〜〜
139	祈るピーターとベッキー	
140	美しい十字架　逆光の中でー	
141	クリスフォード家居間 はぜる暖炉の炎	
142	体をのりだすクリスフォード	クリスフォード「では、私に隣りの屋根裏の少

	明るい微笑		女の役に立つ事が出来るのか」
143	大きく頷くラムダス　熱意を込めて		ラムダス「はい……あの少女に今必要なのは、暖かい部屋と暖かいベットと暖かい食事と、そして暖かい隣人からの愛の手だと…」
144	ラムダス		
145	微笑し乍らクリスフォード頷いて　深く一礼して振り返るラムダス		クリスフォード「そうか……だが、一人で出来るのかね」
146	間髪入れず入って来る二人のインド人の召使い　一礼する		
147	クリスフォード微笑んで大きく頷く　身をのり出していたずらっぽくウインクする　見つめてにっこりする		クリスフォード「成程……ではラムダス、たのむぞ……」
148	軽く叩頭してにっこり頷くラムダス		

〈Aパートおわり〉

149	150		151	152	153
夜のミンチン学院のウラ 隣の家と学院の地下とミンチン の居室が明るい　一部暗くなる	眠いのを我慢しながら皿を洗う ベッキー 皿をもったまま大きくこっくり とする（首ががくんとなる）	A・C	コックリとして皿を木桶のふち にゴツンとあてる はっとなりフキンをもった手で 目をこすり眠気をさまし、又、 洗い始めるベッキー　―だが、 又コックリと始める	止まってしまった手 手からすべりおちる皿 水中からいく分でている皿光り 水の中へポチャンと落ちる	何も気づかずにふちに手をかけ 眠っているベッキー

	154	155	156
扉があいて入るモーリー 眠るベッキーを見てあきれる はっとなって顔を上げるベッキー 目をこすり乍ら 慌てて皿を洗い始めるベッキー ジェームス入って来てにやにや し乍ら モーリー、ジェームスと顔見合せ て笑い合い出ていく（扉をしめて） 大きくあくびをして又、皿を洗 い始める	暗い三Ｆの廊下に眠るシーザー	暗い三Ｆの廊下が見える 明るくなってくる階段 B G O・L 燭台をもって昇ってくるベッキー	眠っていたシーザー目をあける
モーリー「ベッキー！……また居眠りなんかし て……！」 ベッキー「は…はい…ただいま……」 ジェームス「フフ…フ、早く寝たきゃ、それだ け早く片附けろって事よ。判ったな」 ベッキー「は…はーい！」			

	前を通りすぎていくベッキーの足（明るい部分が動いていく） 足を見つめているシーザー 大きくあくびして再び眠る		S・E（扉の開閉する音）
157	ひたいに濡れタオルを載せて眠っているセーラ 扉開けて燭台をかざしてのぞき見るベッキー　扉をしめて忍んで来て手燭を枕の頭の木の箱におき―　セーラのひたいのタオル洗面器に入れる　自分のひたいとセーラのひたいに手をあてて熱をたしかめる　にっこりとして おき上がるベッキー		ベッキー「よかった…熱は、下がったみたいだわ」
158	洗面器のところへ行きタオルをゆすぐベッキー セーラの枕頭に戻って額にタオルを置くベッキー		
159	額に濡れタオルを載せる		

A・C

160	起き上がるベッキー　にっこりとして、大きく安堵の息を吐くそっと毛布を直す		
161	襟元を軽くおさえるベッキー		
162	直し終りおき上がるベッキー 呟くように小声で		ベッキー「灯りはここに置いていきますから… なにかあったら、呼んで下さいましね」
163	安らかな眠りのセーラ		
164	軽く一礼して去っていく（そうっとね） ー間ー ローソクの灯がゆれる		ベッキー「…では…おやすみなさいまし……お 嬢様……」 S・E　（扉の開閉音）
165	天窓を開けていくラムダス（ゆっくりと） うかがうようにしていたが、　身体を室内に忍びこませる		

A・C

	A・C	
166	灯ゆらめいて消える BG OL暗くなる	
167	灯の白い煙がす〜と昇っていく ラムダス飛び降りる	
168	石灰で白くなって床に着地する ラムダスの足	
169	低い姿ーから（セーラを窺い見つめる） 起き上がってセーラをのぞき見るラムダス　うなづく セーラのベッドの後を回って	
170	壁に耳を当てるラムダス	
171	ベッキーの部屋　ベッドの上で十字を切る寝巻き姿のベッキー （無論髪かざりなどなく、髪はほどけて肩に流れている） 祈り終ると耐えていた眠気が襲	ベッキー「神様がお嬢様をお救い下さいますよう……」

No.	内容		台詞
	い両手を広げて大あくび		
	A・C		
172	そのままベッドに倒れこむベッキー　胸の上に載っていた手が力なくおちる		
173	忽ち、イビキと共に眠りに入っていくベッキー		ベッキー「グォーグォー……」
174	にっこりとして壁からはなれ、部屋の中央へ足を忍ばせて行くラムダス		
175	セーラをうかがって天窓を見上げて手を上げて合図を送るラムダス		
176	窓から若い従僕がブラシをおろす　ラムダス前に出て受け取る　くるっと振り向いて扉の方へ		
177	床にまかれた石灰をブラシで集め始めるラムダス		

	手際よくさっさとー	
178	手前石灰を集めるラムダス　ブラシをもって飛びおりる若い従僕　若い従僕も急いで石灰をブラシで集め始める	
179	石灰を集めていくブラシ	
180	石灰を集める二人	
181	寝ているセーラ	
182	ネズミのチビ現れてキョトンと見つめている ブラシが石灰を集めていく チビあわてて引っこむ	
183	大方石灰は集められたようである　若い従僕集められた石灰を馬穴にチリトリで集め入れる ラムダス立ち上がり天窓に合図を送る	

	老僕、見つめていたが身をのり出し ラムダス、ブラシを上にほうり上げる　受けとる老僕 次に巻いたジュータンを下ろす ※この間若い従僕は石灰を集めています		
184	ラムダス、巻いたジュータンを受け取り　床におろす		
185	床にジュータンをひいていくラムダス　石灰の入った馬穴をもって見え行く若い従僕		
186	ひろがっていく真紅のジュータン		
187	老僕石灰馬穴を下ろす 片方（右手で石灰の入った馬穴を受け取る） 下の奥で真紅のジュータンを敷き終るラムダス		

	立ち上がり手前に来ながら手を上げてにっこりして机の方に向かう		
188	だんろに木切れを入れる若い従僕　机を運んで来て静かに下ろす		
	A・C		
189	机を静かに置いて振り返るラムダス 毛布、テーブル掛け、枕、クッション等を下におろす老従僕 受け取るラムダス 机の上に受け取ったものをおき後を振り向くラムダス		
190	机の上におかれた毛布など バスケットに白い毛布をかけたものが机の上におかれる		
191	手を差し上げ別のバスケットを受け取るラムダス		

192	スコップで石灰を入れる若い従僕　火燃えていて照り返し スコップを馬穴に置いて立ち上がる
193	ラムダス、折タタミ椅子を受け取る　若い従僕、銀の燭台を受け取る
194	眠っているセーラと枕頭のエミリー
195	だんろで燃える火　真ちゅうの湯沸しがかけられている
196	下を見つめている老従僕 一つ一つ指呼点検をしているラムダス 下の二人顔を見合わせてうなづき合う　後を向き手を上げ合図するラムダス　老従僕大きくうなづき窓を離れて切れる 若い従僕手をのばしてジャンプ

	して窓にとりつく 格好よく窓外へ出ていく若い従僕　ラムダス振り返り一礼する さっと窓にとりつく	
197	屋根から自家のベランダへと飛ぶ老・若二人の従者 ラムダスが外へ出てくる	
198	ラムダス静かに窓をしめ手を振る　答える　クリスフォード家のベランダに移った若い従僕 学院の煙突から登る一条の煙	
199	寝ているセーラをのぞくラムダス	
200	じっと見つめているラムダス	
201	眠っているセーラ O・L	
202	だんろにかけてある湯沸しと燃えさかる火 O・L	

203	天井の壁に映る炎のメラメラ ラムダスの顔が見えない O・L		
204	屋根の上で身をひそめているラ ムダス O・L		
205	湯沸しがしゅんしゅんと蒸気を 上げている O・L		
206	セーラ動く　ひたいにのせたタ オル落ちる（うなった後でゆっ くりと） 瞼が動く 眼またたき開く（まだ眠いので 半眼） 眠い目で額に手をあてる 大きく吐息を吐き毛布を引き上 げる 満足そうに笑みがこぼれ呟く 手を出して毛布をなでる 毛布を頬によせて感触を味わう		セーラ「うーん、うー！」 セーラ「うーうーううん……」 セーラⓂ「……熱は下がったみたい……」 セーラ「…あたたかーい……」

	セーラ 眠そうに半眼を開けるセーラ		セーラ「……ウーん…このまま寝ていた〜い……」 S・E（湯のたぎる音・シュンシュンシュンシュン…!）
207	ぼんやりしているテーブルやローソク（フォーカスアウト）		
208	眠い目をこするセーラ 目から手はなれ 眠い目をあけて見る		
209	明確になるテーブル（フォーカス合っていく）		
210	はっとなって起き上がるセーラ		
	A・C		
211	唖然となって見回すセーラ		
212	テーブルの上の豪華な食事 キラキラと光っている（七色に輝く透過光）		

213	だんろの上の花と燭台 光る燭台（七色に輝く透過光） P A N・D 燃える火　湯沸しの口から昇る湯気		
214	茫然と見つめているセーラ 見回して下を見る		
215	毛布をさするセーラの手		
216	毛布を眺めているセーラ 毛布をもち上げて頬にすり寄せ 感触を味わう　T・U うっとりと毛布に頬を寄せていたセーラ、目を開け部屋を見る		セーラ「……ウ〜ん、なんてすてきな夢なの……！」
217	輝く食卓の食器（七色に輝く透過光）　うっとりと見つめていたセーラ毛布おろし ベッドから抜け出し足を床におろし、はっとなり床にしゃがむ		

218	真紅のジュータンの上に可愛い室内履き しゃがんで見つめるセーラ 飾りがきらきらと光っている （七色の透過光） 手にとり上げる		
	A・C		
219	室内履きを眺める　飾りがキラキラと光る（七色の透過光）		
220	光り輝く食卓　起き上がるセーラ　眺め回す		
221	キラキラと光る食器		
222	キラキラと光る食器		
223	にっこりと眺め回すセーラ		
224	うっとりと眺め回すセーラ キラキラと光っている道具		セーラ　「……あたし……まだ夢のなかにいるのかしら……。
225	目を輝かして見ていたが頬を抱		……ああ目をあけたら……目をあけた

	きしめ目つむる 背を見せる A・C		ら……夢だったなんて……
226	おののくように頬をつつみこむ手、悲しみをうち消すように首を振る		そんなのないわ……だって本当に見えたのよ……」
227	七色の光を背にしたセーラ 悲しそうにうつむく		セーラ「……ああ……目をあけるのが怖い…。だって…だって……」
228	たぎる湯沸し		S・E（シュンシュンシュン）
229	振り返るセーラ（ゆっくりと） 口唇に浮かぶ微笑… 静かに目を開ける 喜色が満面に浮かぶ		セーラ「…夢が消えないという夢……ほんものそっくりの夢……！」 セーラ「………！」
230	画面一杯七色の光 光の中に明確になっていくテーブルの上の食器（光の中に中O.Lしてフォーカスイン） O・L		

	O・L	
231	喜びのセーラ	
232	眺めるセーラ　喜色一杯の顔 だんろの方へ歩む	
233	だんろの花を見つめるセーラ 花を手で一寸撫でる ゆれる花　光がキラキラと— にっことして下にしゃがむセーラ	
234	しゃがみ手をかざし片手が湯沸しをさわる 思わず手を引くセーラ にっこりと笑顔になって	セーラ「熱!!」 セーラ「…夢ではないのね……」
235	立ち上がるセーラ　眺め回す 喜色が一杯の顔 身体を離して扉の方へ	セーラ「…夢でなければ…一体誰が…。フフフ……」
236	じっと見つめるラムダス	

	にっこりとする	S・E（扉の開閉音）
237	扉によりかかるセーラ うつむき加減に吐息をつき ベッキーの部屋の方へ歩く	
238	扉の方へ行くセーラ 扉を静かに開けて入っていく ねぼけ声のベッキー	セーラ(off)「ベッキー…起きて…ベッキー起きて。大変なのよ…ベッキー」 ベッキー(off)「…あ…あ…お…嬢様……」 セーラ(off)「ベッキー起きるのよ…早く…」 ベッキー(off)「で…でも…お嬢様、…こんな夜中に…お起きになってもよろしいんですか…あ？」
239	にっこりと笑って	セーラ「病気ならもう大丈夫よ。それより、私の部屋に来て、魔法が起こったのよ」
240	驚くベッキー ややあきれ顔になるベッキー 手を引くセーラ　起き上がるベッキー	ベッキー「え?!…魔法?!…お嬢様、夢を見てらっしゃるんですよ」 セーラ「本当なのよ。さ、来れば判るわ！」 ベッキー「お…嬢様ってば……」

241	扉開いて、セーラが眠そうな眼のベッキーを部屋の中へ押すように入れて扉をしめる 顔を寄せてのぞきこむようにするセーラ 眠そうに目をこするベッキー 手を下ろし眠そうに部屋を見るベッキー（半眼で）		セーラ「…ね…驚いたでしょ…眼がさめたら この通りだったのよ！」 ベッキー「え〜え！」
242	飾られた室内（フォーカスアウト）光もぼんやりしている		
243	懸命に見ようとしているベッキー		
244	焦点が合って明確になってくる		
245	だんろ　PAN UP 花と燭台		
246	驚くベッキー前に出る にこにことしているセーラ 突然笑い出しセーラにかじりつくベッキー		ベッキー「まあ……」 ベッキー「アハハハハ…… 〜

	ベッキーいきなり右手を大きく 振ると思いきり自分の頬を叩く		お嬢さま矢っ張り夢を見てらっしゃる んですよ！」 セーラ　「エッ？……」 ベッキー「あいた！」 セーラ　「ベッ、ベッキー」
247	殴った右手で頬をなで その掌を改めて見直し 顔をあげ改めて部屋を見るベッ キー　一歩前へ出る		ベッキー「痛ァ……」
248	キラキラと輝く室内 目を見張り眺め入るベッキー 前に出てテーブルの上を眺め回 す		
249	キラキラと輝く食器を見廻すベ ッキー　驚きの顔　後で微笑し ているセーラ		
250	だんろの上　火と燭台 振り返るベッキーの驚きの顔		

251	ベッドに行き毛布をなでる 頬に毛布をあててうっとりとす るベッキー		
252	微笑しているセーラ		
253	喜びぐるぐる回るベッキー 止まり、セーラの方を見て		ベッキー「わ…ほんと…ほんとでございます… お嬢様！　これは夢なんかじゃないで すよ！」
254	にっこりと近づいて 振り向いたベッキー　喜び一杯 の顔		セーラ「そうよ！　きっと魔法なのよ…。さ、 ごちそうを頂いてみましょうよ……」
255	テーブルを見つめる二人		
256	屋根の上で見下ろしているラム ダス　微笑している		
257	豪華なシャンデリア PAN・D		

	火の赤々と燃えている室内 主人と従僕が向かい合っている		クリスフォード「…そうか…隣りの屋根裏の少女が、それ程よろこんでくれたとは…はははは……。魔法使いのごちそうか…ハハハハ……」
258	嬉しそうな笑い表情のクリスフォード、傍のボリス、キョトンとして見上げている		
259	微笑した顔で頷くラムダス		クリスフォード「それにしてもラムダス……彼女は…よくこれ程早く元気になってくれたものだね」 ラムダス「私、不思議に思いました。…或いは病気を直したのは、(off)……彼女自身の力だったのかも知れません」
260	身をややのり出すようにして		クリスフォード「ほう…それはまた、どうしてだね」
261	燃える火激しく T・U（ゆっくり）		ラムダス「私の見たところ、あの少女は悪い条件の中で働かされ、死ぬ程疲れ切っていたのだと思います……それが倒れて、何日も寝込んだ結果遂に若さが勝ち生きる力を回復したのだと……」

262	火の照り返しがじっと考えこむ クリスフォードの顔映える		クリスフォード「ふむ…お前の云う通りかも知れん……」
263	ボリス顔を上げて見る		
264	手を強くにぎり、ラムダスの方を見る		クリスフォード「…隣りの少女は、自分で自分の生きる力を取り戻した……この私も彼女を見習うべきかも知れんな…」
265	にっこりして大きくうなづくラムダス		
266	燃える火		
267	ナプキンで口を拭くベッキー ナプキンを下におきにっこりと満足した顔		ベッキー「フーウ…魔法のごちそうって随分おなかが一杯になるもんでございますわねェ……」
268	お茶を飲むセーラ カップを口からはなしにっこりとして		セーラ「ウフフ…私も、おなか一杯……」

269	食卓の上の食器と料理		
270	ベッキーとろんとなって 大きくあくびする		ベッキー「お嬢様…おなかがいっぱいになった途端になんだか眠くなって来ましたですねえ」
271	セーラ微笑んで 思いついて　立ち上がり→out		セーラ「まあ、ウフフフ。それじゃ今夜はここでやすむといいわ」
	A・C		
272	in　回りこんで来るセーラ とまどうベッキー		ベッキー「ええ？　お嬢さま」 セーラ「さあベッキー」
273	ベッキーの肩を抱いて椅子から 立ち上がらせ ベッドの方へ進むセーラ		
274A	眠そうにベッドに座りこむベッキー　振りかえり トロンと見回すベッキー		セーラ「さ、ここなら暖炉の火もあるし、暖かい毛布もあるわ……」 ベッキー「ほ、ほんとに夢じゃないんでございますねえ……。」

	テーブルの上を指さして 暖炉の上を指さして 手を広げて パタンとベッドに倒れるベッキー		あそこに銀の燭台がある。 あそこにきれいな花、みんなあしたの 朝まで消えませんように……」
274B	忽ちイビキと共に深い眠りに陥 入るベッキー		ベッキー「グーガー……」
274C	セーラ呆れて Cut尻微笑んで		セーラ　「まあ……」
275	そっとベッキーに毛布をかけ直 してやる 枕許のエミリーを抱きあげるセ ーラ　改めて美しく変身した自 分の部屋を見るセーラ		
276	暖炉の上のローソクと花		
277	テーブルの食器		
278	室内履きとジュータン		セーラN「魔法なのかどうなのか…私には判り ませんでした。……でも、どこかの誰

279	エミリーを抱きしめ立って眺めているセーラ	
280	明るい笑い顔でエミリーに頬をよせているセーラ F・O	

かが、そっと私を助けてくれようとしていることだけは……夢でも幻でもなかったのです」

＜おわり＞